

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
張碓小	1	在り方検討委員会は答申で複式学級について解消すべきとしていたが、教育委員会の複式校についての考え方について聞かせてほしい。	<p>基本的に小樽市内の全体的な学校の7割が12学級未満であるという状況から、市全体の再編成が必要ということが今回の素案の基調になっているが、中でも取り立てて複式校をどうするかという論点では書いていない。</p> <p>小規模な学校では確かに一人一人に目が届きやすい部分はあるが、個に応じた教育活動を展開するためには複数の先生方が協力して個別指導、グループ指導、課題別指導など多様な学習形態を取り入れることが求められていることから一定規模の学校が良いと思う。</p>
	2	張碓小は歴史や文化を持ち、自然環境に恵まれた教育環境を備えている。この計画で再編によってより良い教育環境づくりを目指すということであれば、この学校を是非存続させてほしい。	この素案では廃校にする学校を決めているわけではない。児童生徒数がピーク時の2割となる中で41校を維持することがことにはならないという前提で市全体の学校の在り方をどう考えていくのかをこの素案で示しているが、これを計画として完成させ、平成22年度からそれぞれ地区ごとに協議をしていきたいと思っている。
7月21日	3	(意見)耐震化は早急に着手すべきだと思う。素案では教育には金が掛かるから3校を1校にするというやり方は考え直すべきではないかと思う。小規模校の特徴については長所を5点ほど挙げた上で、それ以上に課題があるような書き方をしているが、地域の愛着があると同時にシンボルとなっている張碓小は地域として孫子の代まで守っていききたい。単にお金が掛かるからとか児童が減ったからということでこの問題を処理するのではなく、地域がどのように考えているかを踏まえた場合、単純な問題提起にはならないと思う。	
	4	在り方検討委員会では10回目の話し合いで小規模校を機械的に統廃合の対象としない事を結論付けていますが、ここでの小規模校には張碓小のような過小規模校も含まれるのか。	複式校の学校を特別な位置付けをしているわけではない。小学校であれば11学級以下、つまり6学年のうちどこかの学年で複数のクラス編成ができない学年が多くなっている。このような規模の学校が今後も増えていくという現状を踏まえるが、だから小規模校をなくそうという議論を始めようということではない。数年後に子供の数がさらにもう1段階少なくなっていくときに、今の41校をそのまま続けていくことが小樽市にとってどうなのか、財政的な側面も教育行政を担当している者としては考えなくてはならないことで、今の学校配置で良いのかという投げかけをしている。ブロックごとに考えていくときに最初に小規模校だからなくすという議論ではなく、全体にブロックの子供の数、それから校舎の状況が今のままで良いのかというのが今回の基本計画のスタンスである。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
張碓小	<p>5</p> <p>①張碓小は地域と深くつながっていて、地域に支えられて教育活動を行ってきた経過がある。このような学校がなくなったら地域はどこにその支えをもっていったら良いのか。再編に際しては数だけでなく地域に支えられた教育内容ということを生かして残すべきところ、または要望の強いところは考えていくという方向で進めていった方が良いと思う。②以前の適正配置では通学距離に関する記述があったが、今回それが無いのは何故か。③張碓小がなくなった場合、学童保育はどうするのか。</p>	<p>①運動会や総合的な学習の時間などを見させていただいて、子供たちが頑張っている様子が十分にうかがえる。他の学校でも張碓小と同じように地域と連携を深めながら行っているが、スケールの広がりなどそういう状況も含めて検討していかなければならないと思う。</p> <p>②通学距離のご質問です。素案の8ページ⑧に「通学時のバス利用」ということで「統合により通学区域が広がるため通学距離がなくなります。学校統合の結果、通学先の学校が徒歩圏内にならない場合は、児童生徒の負担を軽減するためバス利用等の対応を行います。」ということで現在もこの張碓小学校に通っているお子さんの多くの方がバス利用されていてその通学助成を行っております。現行のバス助成につきましては統廃合によって通学距離が延びた場合でもこの現行制度を活用しながら考えていきたい。</p> <p>②まず、平成11年からそれまでと比べ少子化のスピードが一層速まり、距離を条件にしまうと1クラス10人～20人という学校が出てきてしまうこと、また前回の小学校適正配置計画を議論したときに結局計画は取り下げたが、1つの基準を作るのであれば、小樽市全体を議論すべきではないかという意見もあり、今回は小樽市全体で10年、20年後を含めた学校の在り方を考えていかなければならないということから通学距離は条件に載せないでスクールバスやバス助成で対応していくことを打ち出したもの。</p> <p>③小樽の学童保育は圧倒的にその学校の中で開設している例が多いが、いくつかの学校では児童センターなどに開設しているところもある。他の施設での開設についての検討もあるが、基本は通う学校で開設すると考える。</p>
	<p>6</p> <p>(意見)説明のあった適正化基本計画については理解した。張碓小学校では「あおばと学習」を通じて子供たちが地域について学習をしながら色々考え方を持っている。小規模校でも学習成果が上がっていることが分かる。こういった財政面や子供の数にとらわれない事も考慮していただきたいと思う。</p>	

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
張碓小	<p>7 (要望)張碓小の子供はこの20年来バスを降りる時は運転手に必ず挨拶をする。地域も冬の雪の日は毎朝バス停の雪かきを欠かさない。また、地域のことを学習する「張碓を語る」も受け継がれている。自然を守る活動では昭和15年から苗木を育てて植える活動もしている。このような特色ある活動を子供が学校で、そして地域も一緒になって行っている。このような学校を今後何十年も存続させてほしいと思う。</p>	
	<p>8 (意見)通学に関しては距離だけでなく時間もあると思う。他のところでは冬の間バス停で待たされることがあると聞く。距離の他に自然条件もあると思うのでその辺も考慮してほしい。</p>	
	<p>9 (意見)他の方の意見を聞いていると、地域の学校を残してほしいという気持ちが伝わってくる。張碓小のような特殊な状況も残して実験的な形でどのような効果があるかという検討をしてみても良いと思う。</p>	
	<p>10 (意見)地域に学校が残ればそれで良いということではない。地域に子供の声が聞こえる環境づくりということも大切だと思う。子供の教育上どうなのか、地域としてどうなのか、さらにはそこに住んでいる人の意見をどのように集約していくのか、そういう観点からこの学校の適正配置というものを考えていかないといけない。PTA、住民、そして教員の意見を汲み尽くすことが大事ではないかと考える。</p>	

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
張碓小			<p>【意見等を受けて】                      現実に4万人以上いた子供が8千人台になり、この先またさらに減るとい中で、教育委員会としても学校のあり方について議論をしていかねばならない。今日の段階では示しているのは基本計画で、22年度から具体的な議論に入っていきたいと思う。この基本計画を作らなければならない状況も理解をしていただいて、その中で地区ごとの個別の議論を具体的にさせていただくことでご理解願いたい。</p>
桂岡小	1	<p>銭函地区は小学校3校のうち2校が小規模だが、それでも後期に実施されるのか。</p>	<p>他のブロックではほとんどが小規模な学校というところもあり、そのようなところは検討を急ぐブロックと考える。その中でここは小中4校のうち2校と半分が6学級以下の小規模だが、前期後期を分けるとき特に小さな規模の学校がに半分以上を超える地区を前期と考えたので、もっと急ぐブロックが多いということで前期と後期を分ける基準を過半数ブロックと考えた。</p>
	2	<p>この計画の趣旨は教育という部分に配慮したと見受けられるが、財政問題を踏まえた上で教育環境の要素を後付したという疑問も持つ。計画を作るに当たっては大人の都合を優先させるのではなく公教育を均等に受ける権利、子供たちのことを願っての基本計画でなければならないのではないか。</p>	<p>計画では学校規模について小規模校の特徴と課題を踏まえて、望ましい学校規模を考え、それを確保することを前提として学校配置を考えた結果、再編が必要との結論に至っている。学校を減らせば教育予算を削減できるというアプローチではないが、財政問題はこれからの教育行政を支える上で将来的に無関係とはいえない。</p>
	3	<p>果たして適正な学校の規模というものがあるのかを基準として当てはまるのか。例えば、小規模校を出た子供が社会に適応しづらいか、逆に規模が大きくなれば今問題になっているいじめが出てくるという面もあり、十分考慮しなければならない。地域性や、通学の距離、それから学校が地域のランドマーク的な存在であるということを含めての適正という部分で、もう少し地域住民から広く意見を聞いたり見直したりする必要があるのではないか。</p>	<p>小学校の上限の18学級は今の桂岡の6学級に比べて3倍だが、昭和52年にこの学校ができた時は13学級規模、その後15学級になり、さらに何年か後に18学級で6百人を超えていた。この計画ではそれ以上の規模の学校を作るものではない。1学年3クラスは大きすぎる規模ではないと思う。学校再編の問題は地域や、現時点で当事者である保護者や、これから子供を学校に入れる保護者の問題であると思う。これからのこのような意見交換の場を設けて話をしていきたいし、皆さんの思いとか統合に当たっての要望はいただきたい。そのように進めていく課題だと認識をしている。</p>
	4	<p>銭函地域では小学校、中学校それぞれ1校と提示しながら、「皆さんの意見も分かります。十分尊重します。」と言っているが、果たしてどこまで考えてくれるのか非常に心配だ。小学校、中学校それぞれで示した学校数は絶対に守るという形でやるのか、それとも地域の要望によって変更することがあるのか。</p>	<p>市内6地区の望ましい学校規模から見た学校数に関しては今の説明会をやっている段階でその数の見直しについては話ができない。ただ、実際にどの学校を統合するかということや、統合の組み合わせ、統合の時期については実施計画で決めていきたいので、実施計画を作る前段では地域での懇談なり意見交換の場を設けていくのでそのとき話をするようになると思う。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
桂岡小	<p>5 銭函地区は後期なので子供の数や地域の方々の考えも変わっていくと思う。実施計画の前にもう一度銭函地区で説明会をやってもらいたい。また、桂岡の耐震化の見通しについて教えてほしい。</p>	<p>来年度から基本計画の次の段階に入る過程で、後期のブロックであっても懇談会なり意見交換の場というのは設ける予定でいる。適正化の進捗状況については常に明らかにすると同時に、後期の前段ではこういう基本計画に基づいて実施計画づくりに入っていくということで、新たな懇談で具体編の話に入るということ考えている。</p> <p>今日の説明会では、今後の方向性についての基本的な考え方について説明させていただいている。今日の説明会が終わったからといって、もう説明の機会がないということではない。</p> <p>桂岡小学校は優先度ランクは③-1で、29校中の16番目になる。この順位で安心だとはいえないが、一斉に全部の学校着手することは難しいので、今後一定の順番をつけて少しずつ進めている。</p>
	<p>6 学校統合に関する協議会の設置については市側とするのか。それとも地域が自主的に行うのか。それと、どの地域でも学校を残してほしいというのが本音だと思うが、それを一つ一つ吸収して意見を聞いて進めるより、教育委員会が案を作って話をした方が住民はより一層納得するのではないかと思う。財政状況もあるが、より多くの皆さんが理解するように、少しでも適正配置が進むように説得をしていただきたい。</p>	<p>協議会の設置は実施計画に規定されるものと考えている。実施計画では具体的に統合の組み合わせや統合の時期、どういうスケジュールで統合に向けて準備をしていくかということを決めるが、そのスケジュールの中で具体的にどのような準備をしていくかという話合いのために、地域の実情を一番分かっている地域の方に入ってもらい、新たな通学路や校名・校歌、事前交流の持ち方など細かい部分について話合いをして協議会を運営していただいて地域の方が主体になって動いていただければと思っている。教育委員会はこの時はオブザーバーとして入って話がスムーズに進むようなお手伝いをしたいと思う。ただ、これはまだ確定しているわけではなくて、実施計画の中で協議会の持ち方についても盛り込んでいきたい。具体編は実施計画づくりの段階だが、ほかの会場でも意見が出ていたので、統合の再編パターンを複数用意しスムーズなやり取りができるようにしたい。</p>
	<p>7 銭函1丁目に住んでいる保護者の中には桂岡小学校がなくなるのなら最初から銭函小学校に通わせようと思う人もいると聞く。途中で自分の子供がかかわる親は前もってどこの小学校に自分の子供を入れるかを考えると思う。だから、今の時点で来年、再来年にはどこの小学校が残ってどこと一緒にするという目安はあるか。</p>	<p>このブロックの再編については平成30年度からということがこの基本計画になるが、30年度からの期間の中でいつ統合するのかについてはその年から話を始めるということにはこだわらず、その前から話し合いをしていくが、仮の話になるが、後期にこだわらず進めていくという話があれば、それを皆さんに諮っていくということもあるかもしれない。ただ今の段階では、あくまでも銭函地区は後期のブロックという位置付けをしていることだ。</p> <p>これから小学校に入るお子さんをお持ちの保護者の方について適正配置は関心のあることだと思う。平成22年度からまた皆さんとこうして意見を交換しながら進めていきたい。</p>

銭函ブロック及び教育庁舎

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
桂岡小	8	仮に桂岡小学校が統廃合でなくなるとなると銭函1丁目に住んでいる人達が大半して銭函小学校に入学させようとなれば、桂岡はますます規模が小さくなる。そのようなことにならないように十分な時間的余裕を持った中で計画を進めてもらいたい。統廃合を進める上で適当な土地を見つけて新設校をつくるという選択肢はあるのかということをお聞かせ願いたい。	ブロックの中に一番通いやすく適当な土地があれば一番良いと思う。ただ、この銭函ブロックで学校を1つ建てるとすると2万㎡くらいの土地が必要になり、それが果たしてあるかどうか問題だ。だから、最善の策とは言えないが、今の学校の中でどこが一番良いかを考え活用をしていくことを打ち出している。現実的には銭函地区で廉価な土地を入手することは難しいと思う。また、地区によっては今の学校のある場所がブロックの中でふさわしいとなる場合もあると思うが、校舎が築40年、50年という場合はその校舎を使うわけにはいかないので建て替えるという選択肢もあるかもしれない。
銭函小	1	①小規模校でも学校に愛着がある。地域から学校がなくなるとその地域をだめにするので残してほしいという意見が多いが、計画素案にどう反映されているのか。②統合後、学童保育はどのようになるのか説明してほしい。③統合後の特別支援学級の子供の通学について説明してほしい。④計画で地区ごとの学校数を決めることに何か考えはあるのか⑤パブリックコメントの具体的な仕組みは。	①昨年の地域懇談会でも学校と地域の関係から慎重に考えてという発言もあった。学校規模に関して5、6Pでも詳しく考え方を整理して記載した。②8Pの④で放課後児童健全育成事業は現状の水準を下回らないことを示している。統合学校でも事業として展開していくことが基本になる。④平成26年度の推計は3校合わせて437人という推計になり、これを30人程度で編成された学級で考えると12から18学級の中で想定した学校数は450人程度の児童数では1校となる。⑤パブリックコメントは小樽市でも去年から制度化したが、行政主導ではなく市民に案を公表して意見を出してもらうもの。秋頃に1か月程度の期間を設ける予定です。 ③特別支援学級については統合校に設置する。通学に関しては支援学級の児童も自立通学が基本になっているので、その扱いは同じとして、通学距離が長くなった場合は、現行のバス助成などで対応したい。
7月9日	2	町会の立場だが、災害時の避難場所としての学校がなくなるということは地域にとって不安になる。跡利用については避難施設としての位置づけが大事なので検討してほしい。	閉校になった学校の跡利用については避難所の拠点になっていたという部分を念頭に置きながらの利活用について考えていきたい。
	3	財政面が先にありきではなく、学校を減らすことを考えるより、耐震化をしっかり進めるべきだ。	耐震化については昨年からの銭函中学校を含めた5校について耐震診断を行い、今は工法を決める実施設計を行っている。それが終われば補強工事を行っていくことになる。耐震診断については今年さらに2校について着手していて、段階的に進めている。

銭函ブロック及び教育庁舎

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
銭函小	4	<p>学校がなくなり、駅がなくなり、郵便局がなくなるとかということで地域が疲弊する。張碓小学校は百年以上の歴史がある小学校で地域の宝物。行政として学校の数を減らすのではなく、いかに地域を活性化させるかが課題だと思う。「おじさんいつも道路で旗持ってくれてありがとう」ということが見られるのは、立派な子供が育つ素地だ。それを奪う行政は見放される。従ってこの計画には反対だ。</p>	<p>はっきりと反対だと言われたのは説明会で初めなので、誤解があると次の話に行けない。学校がなくなること地域が疲弊することについては、昨年の地域懇談会でも多くの意見があり、教育委員会としても十分承知しているが、今回は平成16年の小学校適配の反省を踏まえ、これからの教育環境をどのようにするか市民全体で考えていこうと思っている。その時に財政面と全く切り離しては考えられないと思う。50年で1サイクルで毎年1校ずつ建て替えたとしても41年掛かる。仮にこのまま41校を毎年建て替えていくことが将来納税者になる子供たちにとっても良いことではないと考える。最初から反対ということではなく、教委の提起について意見を寄せてほしい。</p> <p>市民全体で考えていくということでこの説明会を開催していることについてご理解願いたい。今は皆さんの意見を聞いて素案という計画の土台を作っている段階だ。今後も話し合いを続けていくことで共通理解につなげたい。</p>
	5	<p>(意見) これからも合意を得るために、努力をするということなので十分期待をしたいが、決して見切り発車とか意見を聞かないで計画を進めることにはならないように十分行政として配慮してほしい。</p>	
	6	<p>(意見) 計画には賛成だが、地域や保護者の方の寂しいという気持ちは十分理解できるので、それも含めながらこれから進めていていただきたい。それが円満な解決になると思う。</p>	
	7	<p>(意見) 銭函地区は生活圏が札幌との境界がなく札幌の高校に進む子供が多く、学力をつけるため塾通いしている子が多い。1クラス30人程度と言っているが、先生も大変なのは分かるが技量が足りなければ20人にするなど学力を身につけられる教育環境を整えるべきだと思う。</p>	
銭函中	1	<p>銭函中学校の耐震化について説明してほしい。</p>	<p>銭函中については今は実施設計でIs値が0.7を超えるようにするための工法のための設計を行っている。これが年内一杯掛かる見込みで、補強工事はその後になるので工事が完了するのは来年の秋から冬になると思う。</p> <p>耐震化については平成16,17年の優先度調査の結果、耐震診断が必要と思われる棟は100棟ほどある、このすべてを一斉に行うわけにはいかないなので、一定程度の順位をつけて進めている。</p>
	7月17日	<p>2</p> <p>銭函中や銭函小は校舎の暖房の配管関係がかなり古くなっており冬は大変寒い。校舎の老朽化への対応は統合するしないにかかわらず、特に銭函地区は後期になるので補修についての予算の確保をお願いしたい。</p>	<p>一定程度計画を立てながら進めているが、十分ではない。ボイラーについても毎年の維持補修はもちろん順番をつけながら改修していかなければならないと思っている。</p>

銭函ブロック及び教育庁舎

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
銭函中	3 毎年蘭島で行っている水泳講習会がなくなると聞いた。小樽で育った子供は水泳とスキーができることが自慢だと思うので寂しい限りだ。駅前のプールもなくなり水泳授業も難しくなっていると聞く。プール設置校をブロックに1校は作るという気概を持っていただきたい。	水泳講習会は去年で終わったのは、申込が減って参加者の負担が大きくなったことからやむを得ず閉じたという経過である。ただ、水指連の先生方が高島小と桂岡小で何日間か開催するという試みをするという試みをしている。市営プールは総合計画で位置づけており予算面からも判断しなければならないが、庁内で検討している。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
教育庁舎	1 学校の教員は小樽市の職員か、道の職員か。	道費職員で、道教委から小樽市の教員に任命され、小樽の学校に配置し小樽の教育は進められている。
	2 少子化の影響が出て、学校単位では1校当たりの先生の数は変わらないのではないのか。	先生は道職員だが、学校には他に用務員、給食調理員、事務職員がいる。用務員、給食調理員は市費職員で、事務職員は道費と市費がいる。6Pの教員数の表のとおり教員数は学級数、一部児童生徒数により定められている。
	3 新築の場合、すべて市の持ち出しか。国や道の補助はあるのか。	建築費は国と市の負担となるが、建て方により国の補助は色々ある。古くなって建て替えは1/3で、再編を目的にすると1/2。耐震補強では現在は最大2/3。一例をあげると、青園中は統廃合なので1/2補助。学校建設は起債が認められその返済の一部は交付税措置されるので、青園中学校舎は17億8000万円のうち、補助金、交付税措置分を除いた7億3000万円が市の持ち出しでした。
	4 インターネットのオークションで廃校施設を売り出した新聞記事があったが、廃校あとの校地、校舎を売却することは考えているか。	具体的に決めているところはないが、今までの例では、学校施設は市の大事な財産なので、その利用については地域の方や市の中の検討機関で議論している。住吉中を双葉学園に買ってもらいましたから、今後も売却も検討の選択肢にはなる。
	5 市では66か所の緊急避難施設がある。今後、統廃合で売却されると地域の不安が増すのではないのか。	8P⑦に学校跡利用の項目がある。具体的には書いていないが、41校すべて避難所に指定され、特に周辺部では公共施設もなく、学校間距離も相当離れているので、全体的な跡利用の中で大きな議論になると思う。学校は閉校になったが避難所としては使い続けるとか、この教育庁舎のように跡利用後も避難所の機能を持たせるといった協議が必要です。
	6 4Pの表から、S57以降は新耐震基準を満たしていると考えてよいか。緑小、量徳小、松ヶ枝中の耐震優先度が高く早期に対応しなければならないと考えてよいか。	建築基準法改正でS57以降は新耐震基準なので地震に対しての強さがある。優先度ランクが高いから地震に弱いかどうかは、耐震診断を試みないとはっきりしない。耐震診断の順番の目安。校舎が古い場合は、耐震補強で使うというより、40年程度経った建物は改築も視野に入れて考える。耐力度調査でコンクリート強度を考え、改築も含めて検討していく。



会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
教育庁舎	7 国が15兆円の補正予算を組み、小樽にも4、5億おろるはずだが、耐震診断に回せるお金はないのか。	5校で耐震診断を行った結果、耐震補強が必要となったので次の段階に移っている。国の補正予算ではなく、違う補助金、交付金を耐震補強工事に充てられる。
	8 目的が決まっている何々税という形でおきていないのか。	補正の4億円は市の別の施策に使う。耐震補強は別枠での国の補助が使えるのでそれを使う。
	9 災害はいつ来るか分からないので、前期、後期と言わず耐震化や改築に取り組むべき。補助金以外に目的が決まっていないお金が国から来るならそれを振り向けるべき。私は、堺小から量徳小に転校し、住吉中に通ったが、学校がなくなるのはさびしい。一定規模の学校で子供に学校生活を送らせることは望ましいと思うが。昨年の地域懇談会では、「教育委員会がリーダーシップを発揮して速やかに行うように」という意見も見られた。	学校は今通う子供にとり大事な施設で、これから入学する子供、卒業された方々の気持ちもあるものだ。ここ(教育庁舎)に、閉校した中学校の記念室があり、卒業生、同窓生が結構来た。4万人の小中学生が9千人を切る中で、41校の学校のまま統けるわけにはいかず、再編はしていかなければならない。在学する子供やこれからの子供の保護者、卒業した方々などの意見を聞きながら、理解や協力をもらってやらなければならない。発言内容は意見として踏まえて進める。
	10 (意見)人口が今後減少すると考えざるをえない。望ましい学校規模を保つことは子供の将来のために大切だ。特に中学校では教科外の担任となり、先生の苦労も増える。それを踏まえると、小12から18クラス、中9から18クラスの規模は望ましい。このような説明会の機会に参加者が少ないのは残念。	
	11 (意見)広報等で説明会の周知はかなり力を入れているようだが、参加者が少ないというのは関心がないということ。意見を持つ人は参加するのだから、淡々と進めて良いのではないか。これだけの再編なので、スクールバスの導入となるが、特に冬の通学の問題があるので、安全で安心に通えるように考えてほしい。ブロックの考え方だが、総合計画に合わせずに、町なかでは中央・山手、南小樽を分けず自由に絵を描けるスペースは広い方が良いと思う。	
	12 堺小の統合の時、稲穂小が近いが花園小に通わされた例があったという。地区を線引きする線はフアジーな方が良い。もう少し広い区域で仕切り、保護者の議論を開けるようにした方が良いのでは。	<p>ブロックの分け方だが、去年の地域懇談会では3つの大枠で地域の特性を考えたが、小と中の両方を合わせた再編となれば、3つでは大きすぎる。総合計画では9地区だが、地勢的なことから中心部では集約し、6地区とした。これをコンクリートして統合の組合せ、通学区域の実際の線引きをするのではなく、意見をもらいながら、最終的には子供が通いやすいように、利便を考え柔軟にやっていきたい。堺小の例では、通学校の指定で希望で変更もした。今回の再編でも素案で指定校変更の弾力的な取扱いに触れている。</p> <p>意見をもらったが、説明会、パブリックコメントを経て年内に基本計画をまとめる。校区や通学路の安全などの議論は来年度以降進めるが、ブロックでは色々な意見が出るだろう。通学区域の関連で、7P②で小と中の連携の項目がある。現状では、1つの中学校に5つの小学校から来る場合もあり、学校で努力はしているが、難しい面もある。通学距離のこともあるが、通学区域では2つの小学校が1つの中学校に行くという再編の形もあるので、通学距離もあるが小中の連携という課題を含めた見方をしなければならない。22年度以降具体的な議論ではその辺も含め意見を聞きながら協議したい。</p>

銭函ブロック及び教育庁舎

会 場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
教育庁舎	13	小中一貫教育の学校は考えていないのか。	後志管内の町村で、校長が1人、教頭が2人という小中併置校があるが、国語科、郷土科など小中でずっと切れ間をなくしつなげる国の特認を得て行うのが小中一貫だ。東京の品川区などのようにシステムを作っていかなければ国に認められない。この適正化基本計画では一貫教育は横に置き、適正な規模の中で小学校、中学校それぞれどういふふうに特色を出していくかという考え方で進めていく。
	14	特別支援教育支援員は何人配置されているのか。	現在、小学校に5名いて、特別な支援を必要とする子供がいる場合、普通学級で担任をサポートしている。その他に、肢体不自由児特別支援学級に教室の移動やトイレ、食事の介助をする介護員も5名ほどいる。
	15	特別支援学級ではなく普通学級に子供を通わせるためのサポートか。	特別支援学級は、障害の区分ごとに教室を設け授業しているが、そのうち肢体不自由児の介護員を置いている。学習障害やADHDで普通学級にいる子供の特別なサポートのためには支援員が置かれている。  先生だけでは移動や歩行など対応が難しい子供のために市費で嘱託職員を介護員として採用してきた。支援員の制度は、一昨年から新たな国の制度として発達障害の子供の対応するもので、交付税が措置されている。介護という部分もあるので、介護員と混同される部分かもしれないが、配置の経過は違う。制度ができてから10名程度配置している。
	16	(意見)小樽市の激しい人口減少と少子化の中で、学校再編は教育委員会の強力なリーダーシップを発揮して取り組んでほしい。	